寄稿

3 交流とは出会い、出会いは人生の分岐点

あがらの和歌山
紀州文化の会 会長

大江　　寛

私は和歌山が好きだ。和歌山で生まれ、和歌山に育ち、たくさんの人達にお会いしました。「どこが好きか？」と聞かれると「すべて」とありきたりの答えしか返せませんが、あがらの和歌山の書籍を出版するようになり、深く知れば知るほど良いところだけではなく、悪いところも含めてますます和歌山が好きになり、いろんなことをたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

さて、紀州文化の会をご案内できる機会をいただき光栄です。紀州文化の会の発足は和歌山県の紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録された年に友人と話したことがきっかけでした。和歌山には凄い歴史があり、文化があり、凄い人物がいる。そのことを発信しようということになりました。

紀州文化の会が出版した書籍

平成17年、「ふれあい川柳、人生いろいろ」を出版したことからスタートします。この本は紀州和歌山に関わりを持っておられる方々に川柳を詠んでいただくというものでした。川柳にはユーモアがあり、風刺があり、人情があり、また人に幸せをあげることができる、まさにドラマです。この本は、書いていただいた方にも、また手に取って読んでいただいた方にも喜んで頂けて、このことが私の出版人生の始まりだったのかも知れません。題字は随筆家・梅田恵以子先生、イラストは落語家・桂文福師匠に書いていただきました。そして翌年には「ふれあい川柳、人生いろいろ　第二集」を出版。こ

れを機に組織の名前を「紀州文化の会」と改めました。

この頃から「もっともっと和歌山を」の思いが強くなり、次に手掛けたのが歴史でした。「あがらの和歌山・歴史てほんまにおもしゃいでぇ」。あがらは和歌山弁で私たちの意味。私たちの和歌山を知っていただいて、ええとこもあかんとこも含めてファンになって欲しい。そんな思いを込めて作りました。和歌山には凄い歴史と文化、そして人がいる。歴史の節目節目で活躍した人がいる。これをまとめて年表の本にしたらどうなんやろ？この思いを仲間たちに話すと賛同し応援してくれました。勝海舟がいて坂本龍馬がいて、今年生誕180年という陸奥宗光がいて、彼らと同じ空気を吸って活躍した紀州の男たちがいた。歴史てほんまにおもしゃいでぇ。そんな本が出来上がりました。

あがらの和歌山シリーズ第1弾
「歴史てほんまにおもしゃいでぇ」と
最新版「気になる和歌山　今昔物語第二集」

歴史の次は「人」。人間に着目したのが「あがらの和歌山・人間ってほんまにおもしゃいでぇ」。和歌山のために頑張っている人にスポットライトを当て、そしてその人から熱いメッセージをいただきたいと言う思いからこの本が完成しました。

私は和歌山が大好きですが和歌山の人も大好きです。これだけたくさんの本を出版できたのも支えてくれる人があったから、一緒に泣いて笑ってくれる人がいたからです。私は出版記念パーティーでよく泣きます。涙を見せまいと思ってはいるのですが、人の温かさに触れると弱くなってしまいます。どれだけたくさんの人に支えられたかと思うと感無量になってしまうのです。人と人の出会いは交流から。そう思う私は人と人の出会いがどれだけ素晴らしい化学反応を起こして、素晴らしいものが生まれるかということを目の当たりにしてきました。そこから立ち上げたのが毎月第二金曜日の夜にみんなが集う異業種異年齢の交流会「にきん会」です。もちろんコロナにも負けず現在も継続しています。そこでも素晴らしい出会いがあり、それぞれに楽しい出会いをしてもらっているのが喜びでもあります。この「にきん会」には愛好会もあり、ゴルフ、着物、ワイン、ボウリングなど、それぞれの趣味で集まった人たちも楽しく輝いています。人は人を輝かせるのだと、この「にきん会」で教えてもらいました。クリスマスパーティー、お誕生日、会員の頑張りをみんなで応援する、忘れていた当たり前のことを思い出させてもらいました。たくさんの出会いに感謝します。

平成21年には「あがらの和歌山・365日」が出来上がります。1年365日、その日その日の出来事を「今日は何の日？」的にまとめ上げたものです。そして翌年はあがらの和歌山・古写真集おっちゃんの宝もの。和歌山放送でナツメロ番組を持っていた山本のおっちゃんが大切にしている写真を一冊の本にしたものが完成しました。貴重な写真の数々、機会が有れば是非ご覧になって頂きたいと思います。

紀州文化の会が発足して8年目、「あがらの和歌山・地名てほんまにおもしゃいでぇ」を出版。私は龍神村に生まれ育ちました。もしもう一度生まれ変われたとしてもやはり龍神村に生まれたいといつもそう思っています。ふるさとの温もりというのは年を重ねる毎により深く感じるように思います。と同時にその地名の由来は何なんだろうと、ふと思うことも誰しもあったのではないかと思います。この本は和歌山市の地名の成り立ちの研究ですが、調べてみると実に面白い。「地形に由来する地名」や「城下

町に由来する地名」「信仰から生まれた地名」「職業に由来する地名」「人の名前に由来する地名」等、ロマンを感じさせてくれるものばかりです。私自身たくさんの発見があった本です。そして県民の皆さんに知って頂きたい情報が詰まった「県民手帳・あがらの和歌山」。その次は和歌山弁に焦点を当てた「あがらの和歌山・方言てほんまにおもしゃいでぇ」。大切な友人でサイコーに楽しい和歌山弁を喋る方がいました。今も違う遠い世界で和歌山弁をみんなに広めているに違いないと思っています。和歌山弁と一口に言いましても、和歌山市、田辺市、新宮市と全然違うんです。調べていくと本当に面白いです。地域別に方言面白ランキングで紹介したり、和歌山弁の歌詞やコラム、マエオカテツヤさんのイラストも大変ほのぼのと、見やすい一冊となっています。

がむしゃらに和歌山のいいところを皆さんに知ってもらいたいと走り続けて10年、なんと素敵なご褒美に「平成25年度和歌山県知事表彰」をいただくことができました。そういう賞というものが目的だったわけではありませんが、やはり認めていただいたようで、やってきたことが間違ってなかったと評価をいただいたようで、とても嬉しかったことを覚えています。

平成25年度和歌山県知事表彰を受賞

しかしこれで終わりではありません。書きたいこと、紹介したいこと、後世に伝えたいことがまだまだ有ります。そして10冊目は「あがらの和歌山・ええとこあらいしょ和歌山」。県外の方から「和歌山はいいところがたくさん有るけど、それを上手く料理できていないね」とよく言われます。この本を作ろうと思ったのは「自分たちのことなんやで、あがらの街の事なんやで」と伝えたかったからなんです。「いい街」とはどんな街なんでしょうか？私は「いい人」が住んでいる街、それが本当にいい街だと考えています。その街に暮らす人が自分の街に誇りを持ち県内外の人にも和歌山の魅力を伝えていける、そこを改めて感じていただきたいと思い出版しました。あがらの和歌山は和歌山のファンを増やしていくことが目的ですから、もっともっと県外、海外にも和歌山のファンが増えればいいと思います。

平成27年には「あがらの和歌山・屋号てほんまにおもしゃいでぇ」を出版。様々な企業やお店の名前に特化して、それぞれの想いも語って頂きました。お店や会社の名前の由来は大変おもしろく、それと同時に頑張っておられる和歌山の企業を紹介できたことも嬉しく思っています。続いては「あがらの和歌山・昭和のかほり」。昭和も遠くなりにけり。私はよく令和に入っても昭和何年といいます。因みに今年（令和6年）は昭和99年です。来年は昭和100年になります。将来や未来のことは誰にもわかりませんが、一つ考えるとすれば過去の出来事から学ぶことが、未来へと繋がる何かひとつの気づきになるかも知れません。また、それぞれ皆様の青春を見つけて頂ければ、そんな思いで作りました。ただ、編集していくと思いのほか悲しいことや辛いことがたくさんあったのも昭和で、本当に激動の時代だった気がします。

人が好きな私はここから５年間は人に焦点を当てて5冊の本を発刊致しました。平成も後半になってきた時、和歌山の女性って凄いパワーを持っていると感じることが多くなりました。そこで先ずは紀州の女性を紹介する本を2冊、そして「紀州の侍」と冠した紀州の男性を紹介する本を3冊作ります。この頃には出版記念

パーティーも450人以上が集うようになり、たくさんの方に応援いただけるようになってきました。いろんな人を応援したいと考えた企画でしたが、本当に人の温かさ、和歌山の温かさを知ることにもなりとても嬉しく思いました。

そしてそんな中、新型コロナウイルスが日本にもやってきたのです。和歌山県内で初めて確認されたのは2020年２月13日のことで、コロナは私達のような小さなグループにも大きな影響をもたらしました。人に会えない、会えたとしてもマスク越し、出版記念パーティーも延期が続きました。世の中が変われば自分も変わらなければならないことを痛切に感じました。しかし、矢張り人と会うことの大切さを忘れてはならないと強く思いました。当たり前だったことができない。人と会うことがどれだけ大切なことか、感謝の気持ちを忘れてはならないのだと改めて教えてもらっているのかもしれないとも思いました。

出版記念パーティーの様子

変化していく時代の中、やはり伝えたいことはたくさんあります。コロナよりも前から温めていた「気になる和歌山・今昔物語」の編集に取り掛かりました。今、ここにはこんな建物があるけど50年前はどうだったんだろう？あの場所に有った映画館や喫茶店はどうなったんだろう？調べていくと紹介したいことだらけでした。この本は和歌山市内を６地区に分割し６年かけての挑戦になります。現在、第二集まで出版し三集目の仕上げに掛かっているところです。書店にも並んでおりますし、和歌山市近郊の図書館にもございますのでご覧頂ければ幸いです。

時代は動いています。携帯電話がこんなに普及するなんて40年前は思ってもいませんでした。そしてキャッシュレス、インスタやユーチューブのSNS関連。ついて行くのも大変ですが、人と人との出会い、交流はいつの時代でもやはり同じなのだと思います。現在21冊目の和歌山に特化した本を編集中ですが、たくさんの人と出会い、支え助けていただきました。一人では決して出来ませんでしたし、賛同し支えてくださったたくさんの方に感謝しています。

「文化は先人からの贈り物」。過去を知ることで未来を築くヒントを得る。自分や自分の街を好きになる。そして誇りを持つ。温かい人との交流がまた素晴らしい街を作っていく。いろんなことを教えていただく出版活動でした。そして私の和歌山ファンを増やす活動はまだまだ続きます。様々な時代の中で人が忘れそうなことを、しっかり伝えていけたら嬉しく思います。私はお金持ちにはなれなかったですが、多くの方のお陰で『人持ち』になれた気がします。

ありがとうございました。